

2024年度 学校評価(自己評価)

学校法人 相愛学園
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価に合わせて、保護者代表の評議員にも評価をいただき、2024年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましよう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。
礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人々に愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にする。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあうことを願う。一人ひとりの子どもが、その子らしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることの自信を培う。

II. 2024年度の重点目標

保育の年主題に、「さあ、漕ぎだそう 奏でよう」を掲げ、「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネによる福音書14章6節)の聖句をその中心に据え、新しい世界にイエス様と一緒に力強く漕ぎ出し、一人ひとりが自己発揮し、自分らしさを生き生きと奏でていく一年とする。また、家族や保育者だけでなく、目に見えない神さまからの愛を受け、守られていることを喜びに歩む保育の日々とする。

III. 2024年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況

教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
1,教育目標 子どもを取り巻く家庭と社会に心を向けると、子どもが育つことの難しい時代であると考え込むことの多い一年となった。けれども、保育のことを振り返ると、相愛幼稚園にしかない子どもの育ちがあることを実感出来る一年であった。聖書の世界に心を向ける年長児の姿。他者とのやり取りに心が動かなかった子どもが想像力を膨らませ周囲の人の心を読み取ろうと考える姿。自分のことだけでなく、集団の中で自分にできる役割を考える姿。たくさん成長が神さまの愛の中に確かにあったと実感する。保育者一人ひとりが、まっすぐに子どもと向き合いたいと願って保育をしていること。そのように思える恵みに感謝している。	A	本務教職員間だけではなく、助手の職員とも、密に子どもや保護者の様子を共有する。担任がどのような思いで、子どもに対して援助をしているのか、その理由も含めて共有していく。
2,保育日数・保育時間 保育日数 187日 年少組:4/9~4/12 9:00~11:30 4/15~ 月・火・木→9:00~13:30 金→9:00~13:00 水→9:00~11:30 年中・年長組:月・火・木・金→9:00~14:00 水→9:00~11:30 満三歳児 3歳の誕生日を迎えた翌月から入園可 入園して一週間程度は11:00以降降園し、様子を見て弁当を持って来て、年少児と同じ降園時間まで過ごす。	A	インフルエンザや胃腸炎等の感染症に罹患する子どもはいたが、家庭で体調を見て無理せず休むように協力を呼び掛けているため、園内で大流行することはなく保育を継続することができた。

<p>3,保育の計画と実践</p> <p>若い保育者が計画を立てていく伸びは大変頼もしい。けれども、今までのやり方に捉われない柔軟な心と頭は忘れてはならないとも感じている。</p>	A	<p>子どもたちと、園で育てた野菜や収穫感謝祭で持ち寄った野菜を食べたり、芋ほりで採ったさつまいもを、おやつとして保育の中で食べてきた。自分たちで育てたものや、収穫したものを食べ、その恵みに感謝する経験を重ねた。</p>
<p>4,行事</p> <p>保護者と共に幼稚園生活、子どもの成長を支えていくという考えのもと、園生活は、園児だけでなく保護者の出番も積極的に参加できるよう、内容を考えてきた。また、今年度は10月に「相愛秋まつり」という、保護者が主体となって作り上げる行事も導入し、家族全員が幼稚園に関わりを持ち、楽しむ機会となった。</p>	A	<p>保護者参加の行事が、一年を通して用意されているため、幼稚園で子どもたちがどのように過ごしているのか、その成長を感じられる場が多くて良い。幼稚園と保護者で協力して子育てに取り組むことで、開かれた保育となっている。</p>
<p>5,保育の在り方・幼児への対応</p> <p>遊びを通して、様々な経験を培うことを大切にしてきた。自分の思いを、自分の言葉で相手に伝えられるよう、保育者が子どもの思いのすべてを言葉にしまわれないように、待つ時間ももつように意識した。一方で、困ったことがあった時には必ず助けることも伝え、子どもが安心して過ごせる環境を心がけた。</p>	A	<p>子どもが自分らしく、安心して過ごせる場であるように心掛けた。幼稚園に足が向かない子どもがいる時は、保育者と一緒に友だちの輪に入って遊び、満足するよう、そして、翌日も幼稚園に行くことを楽しみにできるようにかかわった。どの子にとってものびのびと過ごせる場になることを願って、今後も適切な援助を考えていきたい。</p>
<p>6,保護者への対応</p> <p>幼稚園での子どもの様子を共有する。子ども同士のやり取りや関わり合いを肌で感じられるよう、事例をあげたり、写真を見せたりしながら伝えていく工夫をする。</p>	B	<p>攻め込むのではなく、「共に」の気持ちを忘れずにいる。更には、保育者の事務的ミスを減らすことが信頼の根底になると感じている。</p>
<p>7,保育者の研修・資質向上</p> <p>地域や加盟している組織で開催される研修会にはできるだけ参加した。また、園内でもカリキュラムや保育の進め方の研修を定期的に行ってきた。</p>	A	<p>保育者が自分の課題を見つけられるよう、研修会には積極的に参加したい。様々なジャンルの本を手取る、ニュースに耳を傾ける、世の中の事情を知ろうとするなどの小さなことでもとても大切な保育者の資質向上と考える。また、研修会で学んだことは職員同士で共有し、園全体で保育の質を上げていく。他園の保育者たちと話をすることで、新たな視点や考え方を得ることが多いため、今後も積極的に参加できるようにしていく。</p>

学校運営

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p>1,組織・園内分掌・会議</p> <p>園長、主任教諭、事務長が中心となり、クラスや子どもの姿や状況を全保者間で共有した。各クラスの担任だけではなく、保育者全員で、子どもたち全員と関わり、支えていくことができる環境を目指す。</p>	B	<p>保育者数の減員により、園内分掌は、一人の負担が多くなっているのが現状。分掌担当者だけでなく、担当者を支えていく心配りを忘れずにチームで当たりたい。</p>
<p>2,出納・経理</p> <p>銀行での住民税の支払いに手数料がかかる自治体が増え、今後の対応に苦慮している。</p>	A	<p>園児数は横ばいだが、財政は安定している。金利の上昇に乗じて施設設備引当金・減価償却引当金を増やしていきたい。</p>

<p>3,施設・設備</p> <p>不具合を見つけたら、すぐに職員間で共有し、その不具合を放置せず迅速に対処することを心がける。年中組とホールのエアコン1台の不具合のため、2度業者を呼んで対応した。 外壁塗装工事を2025年度夏期休業中に行うため、建築士に見積もりを依頼、2025年度予算に組み入れた。</p>	A	<p>園舎内、園で使う遊具等の点検は、常に心がける。子どもにも、物を大切にすることを育むようにかかわっていく。 2025年度、保育室・ホールのエアコン4台を私学財団の補助金を活用して省エネタイプのエアコンに入れ替える。 日常の細かな不具合には、建築士に相談しながら、丁寧に対応していきたい。</p>
<p>4,健康・安全</p> <p>健康面では、無理のない暮らしを心掛けるように保護者に働きかけていることで、感染症の爆発的な流行などは発生せずに園生活が継続できた。 災害に対する漠然とした不安は常にある。落下物に対するイメージや裸足でいる子どもの守りなど、常に気にかける必要もあるだろう。</p>	A	<p>手洗い、うがいの励行。 気温に応じて、子どもの服装が適しているかを見て、必要な場合は着替えを行う。 水分補給に対しても把握する必要がある。 また、保護者には引き続き、体調管理の目安を示しつつ、我が子の体調に関する親の判断力の育ちを助けていく。</p>
<p>5,情報</p> <p>ブログとホームページ、地域の情報サイトで外部に向けて園生活の様子や園児募集についての情報を発信している。ブログは即時発信、ホームページは初見でも分かりやすく、地域のサイトではこれから入園を控えている家庭に向けてなど、場面に応じて発信中。</p>	B	<p>保護者が日頃の保育を見られるように、情報を発信していく。また、初めてこの園を知る方や入園希望の方に、幼稚園の雰囲気や良いところが伝わるような発信の仕方を考えていく。</p>
<p>6,開かれた幼稚園</p> <p>園の行事に保護者を招き、共に行事を作り上げていく。幼稚園に来ることが多い母親も含め、父親や祖父母も参加しながら(父の会、ひなまつり等)、子どもをたくさん見守りの中で育む。また、聖書の会・たまごの会・こひつじの会なども開かれた幼稚園としてとても大きな役割を持つ。幼稚園の前の道を通る方の心が子どもをみて動いている時もあるということを心に留めて保育に向かう。</p>	B	<p>どんなことにも丁寧に向き合う気持ちが、開かれた幼稚園の下支えとなっている。</p>
<p>7,保護者の会(オリーブの会)</p> <p>各係の方たちが誕生会でのお楽しみ、絵本の読み聞かせ、コンサートなどをしてくださった。10月には保護者が主体となって、「相愛秋まつり」を開催してくださった。 また、年長組の保護者が、「オリーブの会」の名前にちなんで、卒園記念にオリーブの木を園庭に植樹してくださった。 今できることを前向きに考える力が保護者に染み込むと嬉しい。</p>	A	<p>保育者も、共に楽しむ気持ちをもって過ごす。共働きの家庭が増える中で、各家庭でできることを考えて係の活動に参加してくださった。特に、誕生会のお楽しみに参加していただけたことは、園児にとっても楽しみの幅が増え、保護者にとっても保育に参加するプログラムとなってよかった。「秋まつり」も、係の垣根を超えて保護者が力を合わせてくださった。</p>
<p>8,園児募集</p> <p>子どもの様子を写真のスライドショーで見せながら話し、初めて訪れる保護者に幼稚園の様子が伝わるようにした。満三歳児の受け入れがあることも伝えた。 共働き世代の保護者を、幼稚園としてどのように支えていくことができるのか考えていきたい。</p>	B	<p>ホームページでの園児募集事項を閲覧者に届きやすいように掲載する。 園舎周りに園児募集の掲示板を置くことで、幼稚園の前を通りかかった方々の目に留まる機会が増えた。</p>

<p>9,教育実習</p> <p>実習生を積極的に受け入れる。 保育者を志す学生が、現場に出た時の自分の姿を想像できるような、実習の場を作れるよう努めた。</p>	A	<p>実習の中で子どもの成長に携わる喜びや楽しさを感じ、保育施設に勤めたい気持ちを持ち続けてほしいとの願いをもって実習生にかかわる。幼稚園は楽しいところと精一杯伝えたい。 「日本中の子どものサポーターを育てる。」そんな気持ちで、実習生を育てたい。</p>
--	---	---

社会貢献

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p>1,地域との連携</p> <p>卒園児の悩みにも心を向けたいと思う場面がこの頃たくさんある。しかし、保育者たちは目の前の保育に手いっぱい現実。園長の細やかなやり取りが卒園家庭とのつながりを作っている。また、事務長の松野は、本宿“学校”ジャンボリーに指導員として参加、本宿水遊び大会のお手伝いに参加するなどして、地域との連携を図っている。</p>	A	<p>主任教諭が主宰となって、子育て相談室(こひつじの会)を開く。卒園生の母も参加する。運動会では、近隣の家庭にポスターを配り、自宅に掲示してもらったり、さつまいもふかしや餅つきの際には事前に知らせ、煙が出ることを了承していただいたりした。地域の方の協力の中で、保育が豊かになることへの感謝の気持ちを忘れない。</p>
<p>2,保育の公開</p> <p>親子遠足・秋まつり・運動会・おもちゃつきに保育参加。相愛らしく進む姿を感じてほしいと願い取り組んでいる。卒業生の母や父たちも、保護者の会(オリーブの会)の活動に参加した。また近隣の中学校の職場体験に協力して、中学生が子どもと関わる機会を設けた。</p>	B	<p>園での様子を保護者と共有し、一緒に子どもを育てている意識をもって過ごせるように、今後も心がけていきたい。</p>
<p>3,各種研究会への協力・支援</p> <p>加盟しているキリスト教保育連盟や東京都私立幼稚園連合会主催の研修会に対して、特に協力する姿勢をもっている。</p>	A	<p>保育者にとって学びの場となる機会が守られるよう、できることに協力していきたい。様々な幼稚園の保育者と意見を交換したり、講習を受けて自分の保育に落とし込むことで、保育の幅が広げられるように、研修会に参加する。</p>

結果について

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2025年度

単に育児の代行でなく、子どもたちが安心して自己を発揮できる場であるよう、家庭で経験できない集団ならではの子ども同士のやりとりや葛藤、トラブルを経験して育っていけるよう、保育者と保護者が連携しながら支えていきたい。全園児が、学年の壁を越えて、交流し、生活することで、子ども同士の関わりの中から得られる経験や育ちを守っていきたい。そして、幼い者の暮らしを作る喜びと誇りを持てる幼稚園となるよう取り組みたい。保育者一人ひとりが、自分の中に持ち合わせていないこともそれぞれにたくさんあることを自覚しながら進む2025年度となることを願っている。